

ハンドブック
ワンポイント
レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

石灰で引かれたラインの場合、外に膨らんだ場合に膨らんだ位置にボールが落ちた場合はインでよいか、逆に内側にへこんでいる場合に本来のラインではラインにかかる位置に落下した場合でもアウトの判定になるか。
ご指導よろしくお願いたします。

Answer

石灰を溶いてラインを引いた場合で、ラインが外に膨らんだり、ラインが欠落した部分にボールが落下した場合の判定は、正常を仮想して判定してください。

この度の質問は過去にはよくありました。と申しますのは、クレークコートが主で石灰を溶いてラインを引いていました。現在は砂入り人工芝が主流でラインも幅が一定で直線に引かれております。クレークコートでは現状ラインテープで、石灰を溶かして引くことは皆無のようです。ところが石灰でラインを引かれたコートが有り、今回のような問題が生じたのでしよう。

さて、マッチのアンパイヤーとなって気苦労をすることは種々ありますが、頻度から考えると、インかアウト（フォールトを含む）かが微妙な場合の判定が、最も多いと思われます。コート面が全天候か板張りの場合は、ボール落下の痕跡がほとんど残らないので、見方によっては、かえってさっぱりしていると考えられますが、痕跡が残る場合は、判定の資料があって説得力がある場合もある反面、痕跡の状況が微妙なために利害の相反する主張の余地が生じることが多くあります。ラインが正常な状態であっても判定が困難なこともありますから、ましてラインが正常でない場合はなおさらです。

さて、今回の質問について下記の図1から図4までは、石灰を溶いて引いたラインに多くある状況ですが、ラインテープを用いている場合でも該当すると思われます。なお、図中、矢印の方向にボールが飛び、斜線の引いてある部分が落下の痕跡であるとしませんが、痕跡が残らない場合でも、落下の状態が同様であるとして判断するのが適当でしょう。

- 1 図1のケースは、ラインの一部分が欠落していて、その部分にボールが落下した場合を想定しています。この場合は、ラインが正常状態ならばどうであるか、という見方で判断するのがよいと考えられます。
- 2 図2のケースは、ラインが直線でなくカーブしていて、その凹んだ部分にボールが落下した場合を想定しています。この場合は、前述の前提事項にもとづき、カーブはしているが歴然としているラインを尊重して、ラインに触れていなければアウト（フォールトを含む）の判定をせざるをえないのではないのでしょうか。
- 3 図3のケースは、ラインを設けた際には正常で

あったけれども、ラインの一部が細くなっていて、当初はラインがあったが現在は無い状態になっているところに、ボールが落下した場合を想定しています。この場合は、図1のケースと同様に、ラインが正常であったならばどうか、という見方で判断するのがよいと考えられます。

- 4 図4のケースは、石灰を溶かしてラインを引く方法を用いる場合に往々にしてあることで、ラインを引いた際にラインのアウトのゾーンに、石灰の水溶液のしたたりが残っている場合を想定しています。この場合は、そのしたたりが残っている部分は、ラインとみなするのがよいこととなります。そのしたたり跡の部分は無いものと考えて、ボールがラインに触れているかどうかで判断するのが適当でしょう。

以上ラインに関して発生する微妙な状況をいくつか挙げましたが、まだ他にもあるかもしれません。

大会に出場される皆さんに申し上げます。アンパイヤーの判定の根拠に疑問を抱き、競技規則第40条第2項に定められている「質問」をすることを妨げることはできませんが、仮りに正論と考えられることを述べたとしても、アンパイヤーがその責任と権限において採用しない場合は、心中は不満であっても、いさぎよく判定に従うようにしたいものです。それ以上の質問についてはお分かりと思います。

それと同時に、敗者審判制で行われている現状では、大会に参加する誰もが十分な審判技術を身につけて、誰もが納得することができる判定を、するようにしていただくようお願いいたします。

【関連規則】

競技規則第7条、【解説1】

審判規則第7条（アンパイヤーの心得）

審判規則第12条（判定の確認）

